

設 問	生野・朝来地域			
	生野地域自治協議会	奥銀谷地域自治協議会	朝来地域自治協議会	梁瀬地域自治協議会
①地域の自然に関して、好きな場所や楽しんでいること（例：山菜取り、パードウォッチング、風景画を書くなど）はありますか。思い出や体験したことについても教えてください。	・50～60年以上前は鉱山毒（カドミウム）が市川に流れており、生野地域が2分化されていた。 ・銀山より下は遊ぶこともできず、川に入れず魚も食べられなかった。（食べるなど言われていた）水の色が白～青っぽい色になっていた。 ・毎年ウォーキングトレインで生野銀山から市川沿いを歩き、河川の風景、川の音などを楽しむ。年2回（最近では1回）開催し、地元の方が参加する。 ・ダムが出来る前は釣りをしていた。付け釘をつけていたら魚やカメが釣れた。市川は昔よく遊んだ川ではあるが、鉱山から下流は入れなかった。	・市川は、昔は子どもたちがヤゴをとったり、ホタルをとってきたりして遊んでいた。魚では、ギギタ、ゴトンボ、ハイジャコ？などをとっていた。 ・木を切って秘密基地のようなものを作った。木はいくら切っても怒られなかった。遊ぶ場所といえば山だった。 ・採れる魚は、通称ゴトンボという種類。たくさんいて、針を5本つけたら5本かかる。食べたりはせず、溝に放して遊んだ。ギギは家で綺麗にさばいてもらい、ウナギのように蒲焼にする。夜の間に川魚をつけて、深い場所に投げる。そして朝それを採りに行く。 ・ネコヤナギを割ったときの虫でアマゴ釣りに良い。エムシと呼んでいた。ネコヤナギは今見ない。（奥銀谷・いくの地域）	・昔は地域の山でマツタケ採りをしたが、今は止め山となった。入る人がいるとすれば山菜採り位。マツタケを採ったという人も最近はあまり聞かない。 ・昔は薪を得るために木を切っていたため林内は日当たりが良かったが、今は悪い。里山としての管理はされなくなった。	・滝田の山中に十数本の山桜が咲く場所がある。切り通しのある古道を通って行くことができる。大きいものでは幹周90～120cmに達し、樹高も高い。樹種は不明である。下層植生はササのみである。また、土地の所有者についても不明である。
②地域の自然や生きものについて、気になることや心配なこと、残したいと思うものは何ですか。	・ハクピシンは数年前に1度見ただけで最近では聞かないが、いるところにはいる気がする。 ・マダニはニュースになっている。 ・神社の周辺は、ちゃんと残されたところで人を繋いで行っている。高齢化しても繋いでいかないと、それも残っていかない。 ・川は、コンクリートで固めたので環境が大きく変わった。川床に土が溜まるとどんどん植物が生え、成長が早い。 ・シカなどが民家の近くまで出てくるようになった。 ・スギの山が増えて、ドングリなどの自然な山がなくなっていった。昔はほとんどがドングリのいわゆる雑木林の山が広がっていた。今はわずかしかない。 ・スギを切ってもお金にならないので手入れが止まり、日が差さないで雑木が生えない。林業をしているところは減った。山持ちが代替わりをし、関心がなくなっている。	・昔は山で木を切ったら、また実をつけるのでそれを（シカが）食べたが、今はそういったことをしないので、エサが無く農作物に被害を与えるのでは。 ・管理する人がちゃんと繋がって、次の世代になる。神社は神様もいるので。全て残したいという気持ちがあるが限度がある。以前は神社費を徴収していた。信仰が皆違うので、自治会費の中に含めて、神社費という名前を外した。ある程度維持管理をしていかないといけない。今は維持管理が難しい。建物の維持管理費が一番の重荷になっている。	・残したい風景は、さのう高原や、神社仏閣の周辺。心配なことは、シカやイノシシなどの農業被害、ヤマビルで山に入れないこと。河川に草木が繁茂して景観も悪いし、災害の恐れもある。 ・さのう高原は開発して農地も作ったが、今は少し荒れている。 ・神社仏閣を守っていきたいが、管理する方がいなくなって、今は皆さん頑張っておられるが、将来的にはどうなるのかと思う。 ・シカはある程度対策をしているが、山のドングリが無くなるかと下りてくる。 ・ヤマビルはシカのせいで増えている。 ・シカの糞が田んぼの通り道など周りに結構落ちている。 ・河川は、昔はもっと綺麗で、草はなかった。 ・山の管理は、昔は下草刈りや間引きに行ったが、今は一切行われていない。	・ヤマビルが朝来市全体で増えている。子どものころは山遊びをした思い出があるが、今は芝刈りされず道が通れない状況になっており、子どもたちを連れて行けない。 ・神社の掃除をするとヒルに咬まれていたこともある。こんなことがあると山に入る気が無くなる。 ・ご飯を炊いたり、風呂を沸かしたりするのに柴刈りで得た燃料を使っていた。まず、自分の家に近いところから取り、どんどん上に上がっていく。そうすると、周囲が整備され、道もできる。それが子どもの遊び場でもあった。 ・梁瀬駅裏に、感激するほどシロバナタンポポが多く自生している。セイヨウタンポポは見かけない。 ・和田山と山東のメダカは瀬戸内海由来のミナミメダカの遺伝子を持っている。豊岡には日本海側のキタノメダカがいる。キタとミナミのハイブリッド個体もいる。メダカは交雑しやすいため、外来種を放流しないように言ってほしい。与布土には在来メダカがいたが、現在は外来種のメダカが生息している。

設 問	生野・朝来地域			
	生野地域自治協議会	奥銀谷地域自治協議会	朝来地域自治協議会	梁瀬地域自治協議会
③子どもの頃や昔と比べて、地域の動植物や自然の様子で変化を感じingことはありますか。	※②に含まれている	※②に含まれている	※②に含まれている	・ 去年、川にアツミゲシが咲いているのを見つけ、110番通報をした。 ・ 近頃、ナガミヒナゲシが増えてきた。 ・ 病院の駐車場でキツネを見た。キツネと言ってもだれも驚かない。 ・ イオンの周りにメリケンカルカヤが生えている。
④地域に伝わる自然に関わる文化や行事で、大切にしているものはありますか。	・ 吊るし柿、サバ（鯖寿司？）。少なくなってきたので伝承したい。 ・ 今年はカギ、クリがたくさんできた。 ・ 子どもの頃は、あまり柿を食べ過ぎると体を冷やすと言われた。 ・ サバは秋祭りの時に食べる。各家庭で作られる。生野の玉ねぎ販売の時に鯖寿司を出していたが、すぐに売れていた。	・ 黒川温泉。毎年そこまで、キャンプ場の付近まで歩いて、ホタルの観察をする。子どももたくさん来て、ホタル採りをする。たくさん飛んでいる。観察会は地域の方から連絡をする。自治協議会ができる前から、部会の行事として行ってきた。	ー	・ 1月にお當さんを受けるときは、ご飯に青大豆（緑の大豆）を入れる。豆ごはんのようなもので、硬い青大豆を入れて炊く。5、6年前まであったが、青大豆がなくなったため、やめてしまった。 ・ 「どんど」は今でも1月14日にやっており、昔の暦やカレンダーやお札のようなものを燃やしている。昔は梁瀬小学校のグラウンドで行っていた。

設 問	生野・朝来地域			
	生野地域自治協議会	奥銀谷地域自治協議会	朝来地域自治協議会	
⑤地域で普段食べている食材の中で、自然の恵み（山の恵み、川の魚、野生の植物など）を利用しているものはありますか。	・イタドリ。鉱山の関係で全国から来られる。葉が痛みを取るため、北海道では薬草として使われる。栽培をしようかと話していた位。塩漬けを真空パックで販売すると評判が良い。	・イタドリ。後継者の関係で生野地域のように販売まではいっていない。	・ゼンマイ。誰かが採ってきたものをもらう。 ・イタドリは牛の餌。朝来では食べない。	・現在は個人的に食べる程度。桑の葉を食べる。粟鹿山の山頂にあったグミを食べた。
⑥協議会で現在活動されていることを教えてください。また、自然と関わる活動はありますか。	・生野フラワーロードは、寄せ植えを並べる活動。家の前までシカが来るので、毎日取り入れる。朝には綺麗に剪定されている。お正月の寄せ植えとフラワーロード。大変なので数は減っているが、協力してもらっている。	・内山さん。高い（標高？）が、道が整備されている。昔はそこに神社仏閣があり、山からお宮さんを担いで下りた。また池があり、水が枯れない。カメ石といって、カメの甲羅のような石が出ている場所で、子どもたちと草刈りをしたりする。子どもの頃は魚がたくさんいて、フナ釣りをした。	・さのう高原で焼き芋大会。昔に比べて今は消防に連絡しないと焚火が出来ないので大変。	・県・市の補助事業で「なぜなぜ教室」を実施している。年間7回程度実施している。そのうち1回は親子参加で粟鹿川で川の生きもの観察会を実施している。ゴミ拾いを30～40分ほど行い、その後、網で魚など生きものを捕まえ、波多野さんに解説してもらっている。漁連の許可をもらうのが大変だった。
⑦地域の自然や生きものについて、もっと知りたいことや、やってみたい活動はありますか。	・以前は水生生物調査をしていた。コロナになり、縮小した。子ども向けの調査で、水質検査などを行っていた。 生野高校にハンザキの人口巣穴があり、今年は夜間観察があった。	・あなたが一押しのサクラの紹介をする。展示会のようなものが出来ないかと、企画中。	・今の子供たちは川で遊ぶことができないので、水生生物の観察会。小学校の5年生か6年生。山川と円山川の合流地点、センターの前で。生野さんが参加された。お世話になったのは昆虫。波多野さんは特に黒川周辺について全て知っておられる。サンショウウオのことも。地元のものより。	・滝田の山の上の桜がなんの種か確認してほしい。維持やアクセスの改善、所有者の特定をしてほしい。

設 問	生野・朝来地域			
	生野地域自治協議会	奥銀谷地域自治協議会	朝来地域自治協議会	梁瀬地域自治協議会
⑧上記の活動をするにあたって、支援して欲しいことはありますか。	—	・他の地域の活動状況を知りたい。	・講師の紹介。講師ができる方が不足している。	—

設 問	山東地域			
	粟鹿地域自治協議会	与布土地域自治協議会	竹田地域自治協議会	和田山地域自治協議会
①地域の自然に関して、好きな場所や楽しんでいること（例：山菜取り、パードウォッチング、風景画を書くなど）はありますか。思い出や体験したことについても教えてください。	・粟鹿山と粟鹿滝は重要な場所である。粟鹿小学校の児童は夏休みの登校日に、上級生は粟鹿山、下級生は粟鹿滝を訪れた。観光で訪れる方もいる。粟鹿山の山頂からは但馬ドームや城崎を望むことができる。 ・自治協議会の主催で年に1度、粟鹿滝ウォーキングを開催し、120～130人程度の参加者が集まった。 ・川の中に生えた外来種の樹木の伐採や、登山道のロープの張り直しなど、自治協議会で整備を行うなどしてきたが、市として大々的に整備を行ってほしい。	・農道などでのウォーキングを楽しんでいる。地域外からサイクリングに訪れる人もいる。 ・昔は寿賀神社の大木にカブトムシを取りに行った。コガネムシやハチ、クワガタがいた。他には川遊びや、釣り、フキ採り、タニシ採りなどをして遊んだ。	・たまに行く山菜採りや何気ない風景写真を撮る。昔は山に入り、クリやアケビなどを採って遊んだが、今は山に入りづらくなった。 ・最近では、円山川に、コウノトリがまた2羽来ている。最近見ないので、スマホで撮った。	・普段の散歩で近くの田畑が広がる中の農道歩き、作物の成長や周りの山河など自然景観がマッチする姿を楽しむ（防災センターからの、おそらく朝来市でも一番広い田園風景と円山川、山、田畑、そのマッチングが好き）。 ・円山川沿いの堤防、特に右岸の桜並木が、桜並木街道として素晴らしい景色であり、他地域からも人が来る。 ・高校の裏の桜の並木、与布土川。大木の満開の写真を撮りに写真家がよく来る。地元の人たちも弁当を持ち寄り花見をする。
②地域の自然や生きものについて、気になることや心配なこと、残したいと思うものは何ですか。	・昔はコイ、フナ、ナマズ、ウナギ、ミナミメダカ、カンスケ、ハバタ、さされると痛い金魚みたいなやつ（注：アカザ）もいた。 ・以前は、イモリかと思うほど多くの小型サンショウウオがいた。地域おこし協力隊の高木さんが小型サンショウウオの研究をしていたという話を聞いて確認してもらった。 ・山東町では今のところクマの目撃情報はほとんどないが、クマと人間の境界線を作る手段として里山がある。田中区では、住民が所有している山を伐採し、森林の補助金を活用して広葉樹を植える取り組みをしている。田中区からは、この取り組みを粟鹿地区全体に広げたいという意見を聞いている。粟鹿滝の下のスギ・ヒノキもお金にはならないため、広葉樹に植え替え、人間の住むところと動物の住むところの境にする里山づくりが必要ではないか。	・サギが魚を食べてしまう。漁連にフナ1000匹を放流してもらったが、魚をその後みかけない。 ・真砂土採取業者からの土砂流入が気になる。 ・ヌートリアは、一時駆除されて減っていたが、近頃また増えてきたように感じる。	・子どもの頃はアユやナマズなどを採ったが、今は見かけない。アユの稚魚を放してもアオサギやカワウが食べてしまう。川の生態がどうなっていくのか気になる。 ・狸が畑で死んでいたことがあった。山で生活しにくいのだろうか。 ・竹田の川は何もいないと言ったが放流したコイはいえる。 ・円山川の上流の竹田川が改修されてからホタルは一切見ない。	・コイが一時期多かった。川が濁るとコイが増える。和田山地区は橋が多く、住人の方が橋の上から川を覗いて楽しんでいる。田所など。 ・コイ以外の魚は減った。 ・セイトカアワダチソウ、オオキンケイギクが増えた。 ・与布土川のあちこちにスッポンがいた。採って料理する人や料理屋に持っていく人もいる。最近はあまり聞かないが、たまにいるらしい。 ・コンクリート三面張りの川でも、4月に農耕の水を流す。その時にわざとそこまで掻き出さずにカワニナが育つように残す。 ・昔から小川や川にホタルがいた。最近家の周りでも数匹飛ぶようになった。山にいるのだろうか。 ・円山川のナカジ橋の、左岸の低水護岸のえぐれていくところでオオサンショウウオが頭を出していた。これが増えると小魚が減るのだろうか。 ・レッツ朝来という介護施設の前の田んぼにコウノトリがよく餌を食べに来る。

設 問	山東地域			
	粟鹿地域自治協議会	与布土地域自治協議会	竹田地域自治協議会	和田山地域自治協議会
③子どもの頃や昔と比べて、地域の動植物や自然の様子で変化を感じることができますか。	・昔は粟鹿滝のところまで棚田だったが、棚田の農業は手間がかかるため、植林され、スギやヒノキの人工林になってしまった。 ・子どもころは柴栗、アケビ、クルミを採っておやつのように食べていた。今では全く食べない。 ・オニグルミは河川工事によりみられなくなった。昔は炒って食べていた。 ・シカ、タヌキ、ハクビシン、テン、キツネがいる。猟友会に入っており、わな猟をしているが、イノシシ以外はわなで捕まえた。 ・竹藪がひどく荒れている。昔は竹を利用していろいろなものを作ったが今は何もしないため、竹が密集して中に入ることもできない。 ・川の水際にカヤが増えている。水の中に生えているため、非常に草刈りがしにくい。	・昔はブールがなかったため、川をせき止めて泳いでいたが、今の川は泥っぽく水も少ない。また、草丈2～3mの外来種の草が多いため川に入りにくい。マムシもいる。 ・川に生える草の種類が以前と変わり、草丈が非常に高い。与布土川全域に生えている。土手の高さを超えるほど高く、茎が太く硬くなるが、手で折れる程度で、1年で枯れる（シンジュ？）。	・昔は山に入ればイノシシや野ウサギがいて、それが普通だったが、いつの間にか数10年の間に大きく変化してしまった。 ・子どもの頃はイノシシが朝来山や竹田城の中において、追いかけていたりしていた。今はそういうことがほとんどないのでは。 ・外来植物が家の周りにも出てきてかなり厄介な状態になっている。 ・シカが増えた。竹田城の駐車場付近にたくさんいて、全く逃げないので、お客さんが餌をやるのではないかと心配している。 ・ウグイの赤い光景は竹田でも見られた。 ・竹田城の登山道の入口にササユリが沢山咲いていたが、最近少し減ってきた。観光客でたまに採る人がいるので、看板を立てている。	・シカは一時期駆除をしたため減っていたが、また増えてきた。 ・子供の頃は、円山川の川魚が豊富で、いろいろな魚を捕って遊んだ。特に春にはサクライスの繁殖を迎え、赤みを帯びたウグイの大群が川を真っ赤にする時期もあったが、最近この姿も見えなくなり、残念に思う。 ・子供の頃は学校から帰ったら山に行くか川に行くかだった。山ではヤマグミ、ヤマイチゴ、アケビなど、シーズンによって違うが、ヤマユリやタケダンジ（イタドリ）もよく採りに行った。魚もよく採った。 ・今は学校から、山は危ない、川に行って遊ぶなと止められている。子どもの頃から自然と親しむことがなくなってきている。そのため、マムシを知らずに掴んだりしてしまう。 ・マムシや、深くて泳ぐのが危険な場所は先輩から受け継いで経験をしてきた。 ・川の水の量が減っている。都賀川、糸井川で水を見ることがない。石と葦ばかり。唯一円山川はなんとか。 ・水質は下水が発達して綺麗になっている。 ・昔はちょうど田植えの頃、ササユリが山の高い所に生えていた。
④地域に伝わる自然に関わる文化や行事で、大切にしているものはありますか。	・「お當（とう）さん」とは1年間の当番制で、神社の神様をまつこと。（梁瀬、与布土にもある習慣）。掃除なども含めて行う。昔は自分の家に持って帰っていた。私は粟鹿神社にお預けして、お預かり料を払っている。 ・「こと」とは「事始め」のこと。旧暦で1年の始まり。昔のようにお餅をついたり、料理を作ったりはしないが、お弁当を買ったりする。昔は婦人方が煮しめ（混ぜご飯のようなもの）を作り、男は酒を飲んでいた。ぼた餅も作った。昔は畳1畳ほどの大きなわらじを作り、柿の木にぶら下げた。今も東区に残っている。 ・昔は山に入って薪をとるなど、山仕事をよくしていたため、仕事の安全を「山の神さん」に祈願することを現在でも行っている。昔は子どもの行事だったが、今は子どもがいないため、区で引き継いで行っている。 ・地藏盆も子どもの行事だった。老人会はお地藏さんの前でご詠歌を上げ、子どもは各家を回り、お金やお菓子をもらい、夜はそれを食べてお花見をした。今はみんなでお弁当を食べ、行事そのものは残していくことにしている。	・「こと」では今から農業を始めますよ、ことを始めようという日である。 ・「どんど」というものがある。正月にまつた神様や飾り物を、火を焚いて燃やす。その火で焼いた餅を食べれば無病息災になる。	・地域の文化や行事は人に関わるものが多く（たいまつ祭りなど）、自然に関わるものを思いつかない。強いて言えば桜など樹木に関わる行事ぐらい。桜祭りが三週間ほど行われるが、かなり古木になってきたため、植樹をしている。山桜の種で苗木を作り、小学生と一緒に植樹を毎年続けている。メンバーが高齢化で今年までということ、竹田地区で引き受けるという計画を立てている。 ・立雲峽にリスがいて、上がった人が写真をアップされたりしている。	・円山川は今低水護岸になっているが、昔はそれがなかったもので、お盆になると川岸にお供えを祀っていた。今は降りられないので出来ない。川との接し方に限界が出てきた。 ・（糸井地域の妙見山の祭りの件から）和田区からは酒一升だけもらえるので、組の者がのぼりを立てたり掃除をしたりする。

設 問	山東地域			
	粟鹿地域自治協議会	与布土地域自治協議会	竹田地域自治協議会	和田山地域自治協議会
⑤地域で普段食べている食材の中で、自然の恵み（山の恵み、川の魚、野生の植物など）を利用しているものはありますか。	・フキ、ワラビ、ゼンマイ、タケノコはどこでも採ることができる。	・柿、栗、タラの芽などがあるが利用しているものはあまりない。昔は山栗を採ってきて食べていたが、今は栽培された栗を食べる。柿も食べているが、自然の柿が作っている柿かわからない。	・ワラビ、ゼンマイなどの山菜。	・現在はなし。 ・お年寄りの方が河川敷に生えるノビルと牛肉の筋を炊いて雑炊にしたものを、いただいたことがある。とても美味しかったが、今はする人がいなくなった。 ・子どもが遊びで釣りをしている姿は見かける。最近アユを網で採っている人もたまに見る（漁業権を持っている）。
⑥協議会で現在活動されていることを教えてください。また、自然と関わる活動はありますか。	・登山イベント：年1回、100名以上が参加する粟鹿山登山を開催している。 ・粟鹿川や柴川で草刈りを行っている。ゲンジボタルが生息しており、多い時には乱舞する。川が雑草で荒れることを防ぐために行っている。 ・柴川の桜並木と大同寺のつつじを見に行く「さくらウォーキング」を実施している。柴川の桜並木は、春には多くの見物人が訪れる。 ・小学生を対象とした農業体験を実施している。自治協議会の方が畑の世話をしてくれている。1、2年生がサツマイモ、3年生が黒豆、4年生が大根を育てている。天候に左右されるため、ビニールハウスが欲しいと考えている。 ・毎年、保育園～中学生を対象として川の生きもの観察会を実施している。	・「都市農村交流」を企業連携で行っており、現在は三菱と交流がある。若い世代の方々が尼崎から子どもを連れてくる。年2回、田植えと稲刈り体験を行う。子どもは稲刈りよりも川遊びが楽しいようだ。川遊びの場所は川に入りやすく、生きものが豊富で捕まえやすいところや、飛び込める深みのあるところを選んでいる。 ・生きもの観察では川魚やイモリ、水生昆虫を観察している。夜の観察会ではホタルやオオサンショウウオを観察する。内容は毎年変えて行っている。 ・「お宝探検隊」は梁瀬小学校の児童30人が参加し、地域のボランティアとともに月に1度、地域のお宝を探検する。自然環境や神社をウォークラリーのように回り、地域の自然、神社、歴史、農業を学ぶ。	・竹田の子どもの応援を基本とした活動、安心安全のまちづくり、美しい自然と町並みが調和したまちづくり、歴史文化伝統を生かしたまちづくり。 ・まちづくりは人づくりと言われるように、関わる人を育成すると同時に、特に子どもを中心に活動している。 ・自然に関わる活動としては、自治協の部会の活動として、市役所から年に一回ハタノ氏に来ていただき、川の生態や、円山川の漁協の許可を得て魚を採りながら子どもに教える活動を、また藤和山の奥の大將軍杉を散策しながら歴史探訪を絡めた活動を今年はしている。 ・竹田城の関係で観光客が多いこともあり、山の木に名札をつけ、我々や遠方から来た人にも知ってもらおうといった活動もしている。	・年に1度、ふれあいウォーキングを開催。地域の方を対象に、和田山地区内の8つの神社を3年間で回るスタンプラリー、「和田山八宮」巡拝ウォーキングを実施しており、歩きながら自然の地形や景観を大観するイベントを行っている。 ・歩くことでより地域を知ってもらう。和田山地区の神社が平地ではなく山の中腹部などにある。自然の中に神社があるので、本当の自然と触れ合える。 ・枚田小学校の児童を対象とした土曜チャレンジで、借りた農園での田植えや収穫体験を行っており、その中で児童が虫を見つけたりすると、大層喜ぶ場面がある。普段そのように遊ぶ機会がないのか、石でも珍しがって遊ぶ。
⑦地域の自然や生きものについて、もっと知りたいことや、やってみたい活動はありますか。	・小型サンショウウオについて専門家の調査と保全をしてほしい。	・ヌートリアを駆除してほしい。堤防に穴をあけるなど、川を荒らしている。農作物への被害も出ている。昨年か一昨年に駆除してもらったが、毎年子どもが出ている。 ・「山東真砂」と呼ばれる砂をとる企業がある。そこからの土砂が川に流れてきて濁る。濁りが生態系にどう影響しているか心配している。与布土川の下流と上流で雰囲気異なる。	・円山川に魚が戻り、鳥が飛び交うような風景にする。桃源郷のような街にしたい。そのためにはどうすれば良いか。	・土曜チャレンジで野草や昆虫に触れ合える体験などもしてみたい。

設 問	山東地域			
	粟鹿地域自治協議会	与布土地域自治協議会	竹田地域自治協議会	和田山地域自治協議会
⑧上記の活動をするにあたって、支援して欲しいことはありますか。	—	—	・川が荒れているのを綺麗に出来ないか。 ・河川敷も台風が来ると朝来と生野の方から流木が流れてくる。それを養父土木の方に何とかしてほしいといったら「地元でなんとかしてください」と言われた。放っておいたら最終的には豊岡に行き、津居山、日本海に流れていくが、それでいいのか。 ・皆で一斉にすることを考えるなど。補助金的なものを含めて。地域でも、皆で行動を起こすことによって他地域も動いてもらえるように。 ・地域の側から考えて、市の方に希望を出すと、補助金が出しやすいのでは。	・関連の講師派遣などが必要と思われる。講師派遣とは少し違うが、山など、色々な場所に連れて行った時、怪我をした場合などに看護師のような方がついてきてくれると本当に心強い。講師は地元の方をお願いすることができるが、看護師はいない。 ・収穫体験や苗植え等の植栽体験は出来るが、山の中や川の中に入っていくのはリスクが高く、勇気がない。

設 問	和田山地域		
	糸井地域自治協議会	大蔵地域自治協議会	東河地域自治協議会
①地域の自然に関して、好きな場所や楽しんでいること（例：山菜取り、バードウォッチング、風景画を書くなど）はありますか。思い出や体験したことについても教えてください。	・4月中旬頃から山菜採り、フキ（和田集落内）、ワラビ（アサヒ）、ゼンマイなどを採りに出かける方もおり、タケノコも採れる。最近はゼンマイを見かけなくなった。 ・バードウォッチング。但馬のバードウォッチングの顧問をしている役員がいる。 ・サンショウウオ、モリアオガエル、コウノトリ	・山々が近く、大都会では感じられない四季の移り変わりを自分の目で実感できる。コンクリートではない自然のままの川が残っているところがあり、流れの音も楽しめる。 ・和田山トンネルの向こう側、特に宮内、高田、石和川、岡や芳賀野から流れてくる川では、コンクリート部分もあるが、石がごろごろしており草が自然に生えている。 ・糸井川は自然に近い。谷川も少しは自然があるが昔とは変わった。	・富士公園上の大町池から見る景色が好き。遠く氷ノ山が見える。5月初旬の残雪の氷ノ山は最高。 ・9月に行われる大森神社の藤まつりに来る人はそままで上がって全体を見ることが多い。 ・子供の頃は子ども会でゼンマイなどを取り、公民館で重さを量り束にして区内で売り歩き、子ども会の活動費にしたことが思い出。 ・子供の頃はフキ、ワラビ、ゼンマイなどを採った。個人で山菜を採っている人はまだいる（和田山方面へ）。
②地域の自然や生きものについて、気になることや心配なこと、残したいと思うものは何ですか。	・ホタルは普通に出る。	・昔はグズババ、ギギなどがいたが、最近はいない。最近見た人がいるという話を聞いた。復活してきているのだろうか。 ・昔は圧倒的にいたフナを見なくなった。 ・テラノリ橋（？）から北に行くと、天気の良い日にはテトラポットの上にカメとスッポンが30匹程昼寝をしている。（ヒラガの裏、教習所の近く） ・区画整理事業で道路や宅地の形状が大きく変わり、住みやすくなった反面、昔あった小川がコンクリート化されて、ホタルをはじめとする生物がかなり少なくなった。ホタルを見ることがなくなった。クリーン作戦の時に、川の堆積物や土砂を全部出してしまう。開発したところでは見られないが、宮内等で見られるのでは。 ・耕作放棄地や道路ののり面にツル系の植物が繁茂している。（ススキに似た、ヨシ？アシ？またブドウのようなツルをつける） ・耕作放棄地は見る影もない（セイタカアワダチソウ等が茂っている）	・従来見ることがなかったセイタカアワダチソウが道端、空き地、耕作放棄地、畔等に増え、どんどん勢力を広げているのがとても気になる。 ・田んぼや庭先にススキのような草がよく出てくる。トゲのある草（ワルナスビ？）が生える。牛の飼料の中に混ざっていて、牛糞を撒く際にそこから出てくるのではないだろうか。 ・昔はなかったのに、どんどん増えている見たことのない雑草がある。 ・川は支流なのでコイはいない。フナやモクズガニもいたが今はほとんどいない。 ・ホタルは普通にいる。 ・コウノトリの巣塔が二つある。

設 問	和田山地域		
	糸井地域自治協議会	大蔵地域自治協議会	東河地域自治協議会
③子どもの頃や昔と比べて、地域の動植物や自然の様子で変化を感じることありますか。	・子どもの頃は、糸井川に行けば魚（カワムツ、オイカワ、カワヨシノボリ、ムギツク、カワムツ等）もいたが、最近は川に入ることもできないようなアシの群生で、魚の種類も減ってきたのではないかと思う。 ・川からも子どもたちの遊び場がなくなった。昔の、牛を放牧して、草を食べる、という風景が様変わりした。 ・魚が見られなくなったという話に反論するわけではないが、友人が、サトウとツタヤの間の溝？あそこの浅い川でグズババやアサジを見たらしく、60年以上前の言葉を聞き、出てきたということに嬉しくなった。	・少ない水はほぼコンクリート製となり、魚類やカメなど昔いた生物も今は見られない。 ・登山の際にササユリを見た。	・山や川が、気軽に遊びに行けないくらい荒れたり、雑草（ススキのようなもの、また水草）が茂ってきている。ヌートリアやブラックバスなどが増えて被害が出ている。 昔は川に入って泳げたが、今は水面が見えない位に水草が茂っており入れない。 ・ヌートリアが減らない。農業被害がある。 ・藤公園の上の池に誰かがブラックバスを放したようで、育っている。放したコイを食べる。親ゴイが卵を産んで稚魚がいると思ったらいつの間にか食べられている。
④地域に伝わる自然に関わる文化や行事で、大切にしているものはありますか。	・ざんざか踊り。7月の第3日曜日に行われる。田植えの終了を神の御前に報告、稲の順調な成功を祈り奉納されていたというお祭り。太鼓踊りと呼ばれ、色々なことを願う。1600年代から始まったと伝えられている。寺内地区のお祭りで、県の無形文化財になっている。地域で文化の継承が続いている。 ・組の方では、妙見山の山奥から丸い石をもらって来て、それをご神体として祠を作り、雨ごいをする祭りをしている。1853年（嘉永6年）に飢饉があった時の祭りの継承。7月17日に組でのぼりを立て、妙見山の祠を祀る。今年は渇水だったため、妙見山にあがるか、と話していた。	・かわそっさん（かわすそ）祭り。今はさびれた。 ・観音さんに他地域のからたくさんの方がお参りに来られたそうだが、今はそこに参る者はいない。	・8月の第三週目の、夏祭りの夜、「たいまつ」をつける「虫追い」の行事が続けている。盆踊りの時に1m～2m位の木に火をつけ、昔は子どもが多かったので、子どもが一人一本を持って歩いて行き、田んぼの虫を追い払うというもの。今は子どもが少ないので、夜になると田んぼに何本か置いた木に火をつけ、虫追いという形で行っている。 ・盆踊りも昔はやぐらを立てて踊ったりしていたが、だんだん踊る人がなくなってきた。 ・石部神社の秋祭りの際に宮神楽の奉納がある。五穀の豊穡か、そういった関係だと思われる。同じ日に同地区で秋祭りが行われるため、あまり人が見に行くことがない。

設 問	和田山地域		
	糸井地域自治協議会	大蔵地域自治協議会	東河地域自治協議会
⑤地域で普段食べている食材の中で、自然の恵み（山の恵み、川の魚、野生の植物など）を利用しているものはありますか。	・ 山菜を採る。川には行かない。	・ 現在では食べることは全くない。子どもの頃は川魚を焼いて食べたり、祖父母に山に連れて行かれ、食べられる葉っぱや木の実などを食べていた。こんげ？赤い実。梅雨時期、6月頃に実る。さくらんぼの少し小さいものや、あけびなど。野イチゴ、そういったようなもの。 ・ 松茸祭りといって、村の皆が集まって山に行き松茸を採り、すき焼き等の色々な料理を作る行事をしていたが、マツクイムシでマツが枯れたため30年程前から現在まで中止。	・ むかごを採取してむかごご飯にする。ふきを採って佃煮にする。ウドやタラの若芽をてんぷらで食べる。近くの山で普通に採れる。
⑥協議会で現在活動されていることを教えてください。また、自然と関わる活動はありますか。	・ 地域と学校の連携で共同体制推進事業の取り組みによる、小学校4年生から6年生を対象とする、糸井チャレンジとして参加者を募集し、糸井を大いに楽しみ、自然とつながり、糸井を大好きになろうをテーマに、年間10回の体験を実施している。 ・ 内容は、糸井川の生き物観察や魚のつかみ取り（夏休みに入った7月末の土曜又は日曜日）、床尾山の登山（11月の第3日曜日）、秋の自然観察（山菜採りをさせて、てんぷらにする年もあった）など。 ・ 5月からスタートし、2月の最後の閉校式まで月1回行う。四季折々の自然と交わる。 ・ 糸井チャレンジの委員長が講師になり、（大蔵小学校？）の先生OBの方が中心になって動いてくれている。自治協のメンバーも月々の部分、例えば2月の雪合戦の時に行ったりと、学校と手分けしてスタッフをしっかりとそろえながら運営をしている。山登りはその得意な方にチームリーダーとして参加してもらう。子どもたちの安全を確保しながら野外活動が出来る。	・ 農業体験として園児1年生にサツマイモ、2年生に落花生と赤じそ及びジュースづくり、3年生に枝豆の植え付けと収穫、及び3年生には円山川にて水生生物の観察会を実施している。学校から徒歩10分程のところに農地を提供してくださる方がいる。田んぼや畑が少なくなってきたので、土に触れることを喜ばれる。観察会は、この2年程はハタノ氏に講師として来ていただいている。その前は豊岡のコウノトリの郷公園から来ていただいたりしていた。円山川は昔と違い浅く、子どもの腰よりも下。	・ 東河地区歴史探訪ウォーキングで遺跡を見学し、道中の紅葉の自然を味わう。年に一回、地域の方30人程を対象に行っている。昨年は9つの地域のうち3つの地域の寺や寺の跡などを回った。今年も2つの地域で、学校の跡などを、その地区の方に説明していただきながら回っていく予定。 ・ 昨年までは石部神社でヒメホタルの鑑賞会があった。竹を切り、中に明りを入れる。懐中電灯をつけると見えなくなるので一切光を入れないように、と現地で説明会があったりと、準備が大変なことと、子どもを対象にしていたため、夜ということで安全面で難しくなった。 ・ 学校で小学校3年生は水生生物の自由研究などを行うことになっており、ハタノ氏が講師として呼ばれている。
⑦地域の自然や生きものについて、もっと知りたいことや、やってみたい活動はありますか。	・ 最近地域の田んぼにオオサンショウウオを見つけることがあり、生息状況の確認も必要ではないかと思うが、葦が繁茂して確認はできかねるような状態。 ・ 今年田んぼの水路で4匹確認した。5月と8月と先月に、文化財の担当の方に来てもらい、捕まえて糸井川に放流した。オオサンショウウオは結構水路に入り込む。 ・ ヤマユリが庭や家の方の山に結構たくさん自生している。糸井地域の真ん中あたり。クマも出る。一番田舎なのでヤマユリも庭にいる。 ・ 天然記念物のモリアオガエルが庭の池にたくさんの卵を産む。自然の中に深く囲まれている。 ・ コウノトリは東河の方にも来ているかと思うが、山東町が結構無農薬のコウノトリ米を作っている。生き物がたくさん来る田んぼがある。毎日ではないがコウノトリも来る。 ・ 人口巣塔があり、つがいでは来るが巣はまだ。	・ 大蔵地区内には昔ながらの自然にあふれる川が残っており、今後はその場所での観察会も開催したいと検討している。 ・ 環境を変えてみることも必要ではないか。 ・ 石和川。地区名は法道寺。（カラスカ？）辺り、高田あたりまで。	・ 植物の名前や見分け方を学びたい。

設 問	和田山地域		
	糸井地域自治協議会	大蔵地域自治協議会	東河地域自治協議会
⑧上記の活動をするにあたって、支援して欲しいことはありますか。	—	・ 場所を決定するにあたり、候補数カ所を私どもと一緒に見て回ってほしい（環境面、安全面で）。	・ 山野草や山菜ツアーの企画実施をしてほしい。 ・ 例えば春は春の山野草、秋は秋といったような。東河地区内にきのこのスペシャリストがおられたり、山野草をととてもよくご存じの方がいる。個人的について行って教えてもらうことはあるが、規模が広がるといいと思う。ただ、クマやスズメバチがいるので難しいかもしれないが、少しでも自然の方に向かっていく機会になればと思う。 ・ （キノコのスペシャリスト？）稲津さんという技工士の弟さんは、住まいは東河ではないが、とてもよくしてくれる。 ・ 山野草は近所のヨシイさんが自分でヤマユリを育てられて、咲いたら連絡をくれる。 ・ 個人的に話を聞くだけではもったいない。

設 問	あさごササユリ21（現在は解散）	特定非営利活動法人 ひょうごエコ市民ネットワーク	のあそび部	特定非営利活動法人 日本ハンザキ研究所
	市民による環境保全団体	市民による環境保全団体	市民による野外活動団体	民間によるオオサンショウオの専門研究機関
①皆様の団体はどのような経緯で設立されましたか。また、普段の活動内容や活動場所について教えてください。	・減少するササユリを何とかしようと、平成2年くらいから活動していた。会が立ち上がったのは平成9年（当時の新聞記事より）ごろ、その記事ではメンバーは23人いたようだが、実際に山に行ってササユリを探したり、種子と増やそうと活動していたのは4～5人くらいだった。 ・朝来市の人がササユリに興味もたないことに対して、非常もったいないというか、このまま何もせずにほっておいて良いものか、という気持ちがあった。 ・ササユリの生息場所を探したほか、ササユリをより一般の人々に知ってもらうために、人工的な増殖の方法について色々と試してみた。 ・しかし、朝来市の人々から関心を引き出すには至らなかった。鳥が鳴く、花が咲く、川に魚が居るのも当たり前の中で、そういう自然の不思議なことに興味を持つ人が少なかった。 ・ササユリの会は趣味の会で終わってしまったが、このような形で行政が資料（生物多様性地域戦略）を作るために、話を聞きに来たことは非常に嬉しい。そういう時代が来たのか、と思う。	・まだ地球温暖化があまり一般的な言葉ではない時、温暖化によって将来は大雨が降ったりするだろうと聞き、危機感からそういうことを一般の人に知らせたいと思った。 ・当時は、温暖化に関する話の講演会を開催したり、生活の中で環境に良いことを実践していく普及啓発を行っていた。 ・シカ問題に関して活動していた時期もある。夜間に頭数を数えにいった。 ・基本的にはその時の代表がやりたい活動に取組んでいる。 ・今はカタクリのモニタリングの他、ゴルフ場に許可をもらってブナ林を復活させせようと。ブナの種子を山から採ってきて、栽培して育てて植えて、雑木を刈りはらって世話をしている。ただし、今年はこの活動はできなかった。 【カタクリのモニタリングについて】 ・以前、工事の際にカタクリの群生地が発見された。 ・これは貴重なものだというので、地元住民によって今モニタリングしている場所に移植された。 ・エコ市民ネットワークの補助金で、周囲に柵をつくったりした。また、私が所属していた「南但馬の自然を考える会（現在は解散）」が、当時は主に調査にあたってきた。 ・今は自治協の協力も得ながらモニタリングを続けている。 ・カタクリは、500個体弱の個体数は維持できている。	・元々は朝来市内のNPO法人の一事業として発足した。しかし、年間計画の遵守や参加費の徴収といった事業としての枠組みが柔軟な活動のハードルとなったため、現在は独立した小さな親子サークルとして活動している。 ・活動自体は3年目である。多い時は子どもも合わせて30人ぐらいになる。参加費はなく、その場その場がかかった費用を折半して充てている。 ・この活動を広げたいということでもなく、10年、20年続けたいということを強く思っているわけでもない。今来てくれる子、これから来てくれる子どもたちが居やすい環境や場づくりができる間はやっていきたいと思っている。 ・ターゲットは親子だが、中学生ぐらいの子たちも小さい子と一緒に遊んだりしながら、幅広く自然や外遊びを知って欲しいと考えており、それをどのようにつなげていくかも考えながら活動している。 ・活動内容について、「日常の延長」を重視し、天候に合わせて3日前に開催を決定するなどのフレキシブルな運営を行っている。内容は、未就学児向けの平日の散歩会や、土日の小学生を含む自然遊び（川遊び、山歩き、焚き火など）が主である。 ・活動場所は、朝来市を中心に、養父市や福知山市の宝山など、周辺地域も含む範囲で季節に応じて選定している。選定の際には安全面、携帯電波の有無、初心者親子が参加しやすいようトイレの有無等を重視している。	・2005年に、栃本武良氏が設立した施設の研究所である。姫路水族館の館長をしていた栃本氏が、黒川をフィールドにずっと調査をしていた中で、ここを素晴らしい場所だと感じ、退職後に移り住み、市から黒川小中学校跡地を借りて設立したと聞いている。 ・活動は調査研究と、オオサンショウウオとそれを取り巻く環境の保護・保全、教育普及啓発を行っている。 ・保護・保全の提案を行政に対して行ったり、市民向けに普及啓発活動を行ったりしている。朝来市には市有林などでオオサンショウウオを育む森や、保護区がないため、天然記念物を作ってほしいということを働きかけている。
②活動を通じて、守りたい、次世代に伝えたいと考えるもの（例：場所、生きもの、食、文化、景観、コミュニティなど）を教えてください。	・ササユリをこのまま絶やしたくない、絶やすのはもったいないと思い、ササユリとササユリが咲く環境を守り続けていきたいという想いで活動していた。 【ササユリについて】 ・活動していた当時から、ササユリの数が減っているのは感じていたし、話も聞いた。最近の状況は確認していないので分からないが、増える理由がない。ほっておけば絶滅するのではないかと思う。 ・ササユリは種子を撒いてもなかなか増えない。花が咲いた後にたくさんの種子ができるが、それを何百と撒いてもほとんど芽は出なかった。300個の種子を撒いて、1～2本の芽がでる程度で、追跡調査する気力がなかった。	・カタクリのモニタリングについては、但馬地域に当時2例目の希少な植物が見つかって、それが工事でなくなってしまうかもしれないという危機感から、守りたい、残したいと思いから活動を始めた。 ・「南但馬の自然を考える会」の方は、何か具体的な植物があって、それを象徴として保全することによって環境を守りたいという方針だったが、「エコ市民ネットワーク」は広く地球の環境を考えると、但馬の環境を考えるという方針、気持ちで活動している。	・予め決めておいたプログラムを実施するのではなく、子どもたちがその場所の環境に合わせて自発的に好きなことをする「主体的な遊び」や「自由に遊ぶこと」を重視している。 ・地域の20代～40代の住民もあまり外遊びをしなくなっていて、周辺には自然がたくさんあるのに日常で自然に触れていない人も多い。小さいお子さんが複数いるお母さんは、一人では子どもたちを外に連れ出すこともままならないケースも多いため、そうした人を外に連れ出す狙いもある。多々良木のエコパークに行った際には、地元だが出来ることがない参加者が多く、初めての訪問で非常に盛り上がった。 ・顔が見える範囲の少人数での実施を基本として、信頼できる複数の大人に見守られながら安心して遊べる場や環境づくりそのものを大切にしている。 ・親子の関係での見守りだけでなく、大人が複数の目で子どもたちを見守ることで、親自身の負担を軽減することと、親も共に自然を楽しむ場づくりになるよう配慮している。	・円山川でのオオサンショウウオの分布や繁殖、成長している場所を把握した上で、河川管理や保全を図らなければならないが、全く行われていない。市や県の工事ではオオサンショウウオが出てきたら対応するとしているが、相当数のオオサンショウウオが潰されているだろう。産卵巣穴をつぶす可能性もある。朝来市ではそのような工事をしないようにしてほしい。 ・多様性戦略でオオサンショウウオの生息状況を扱うことについては、場所が特定されるのは嫌だという気持ちもある。保全・保護など次のアクションを起こすための材料にできるのであれば入れた方がいい。扱われ方次第であるが、具体的な情報がある方が市として動きやすいということであれば入れてもいいと思う。

設 問	あさごササユリ21（現在は解散）	特定非営利活動法人 ひょうごエコ市民ネットワーク	のあそび部	特定非営利活動法人 日本ハンザキ研究所
	市民による環境保全団体	市民による環境保全団体	市民による野外活動団体	民間によるオオサンショウオの専門研究機関
③活動を通じて見つけた生きものを教えてください。特に印象に残っているものだけでも構いません。	・昔は、多々良木や馬場山でササユリが咲いていたのを見た。また、やくの高原はササユリが生える環境だろう。 ・この辺の言葉でいうヒラベ（ヤマメまたはアマゴ）、イワナを釣っていた。	・メンバーは、環境という広いくくりの中で活動をしているという感じなので、生きものそのものに関心を持っている人はわりと少なく、見つけた生きものを把握できていない。 ・イチリンソウは朝来町内でみた。	・子どもたちにはアカハライモリが人気があり、川で短時間に50匹ほど捕まえることもある。その他にもサワガニや、ヘビ、虫、魚など多岐にわたる様々な生物を見つけることができる。 ・特に朝来市の波多野さんなど生き物をよく知る大人が入ってくれと、より多くの生き物を見つけることができ、子供たちの興味関心も醸成することにつながる。 ・見つけた生き物をその場の観察だけでなく飼育の体験につなげた際には、飼育がうまくいかなかった小学生から生き物に詳しい中学生が飼育を引き継ぎ成功させるといった上下の違う年齢・学年間での協力や知識共有も見られた。	・ミズラモグラの標本がある。兵庫県内でも数例しか記録がない貴重なもので、標本はこれしかない。 ・ヒダサンショウウオがいる。ニホンヒキガエルは減少傾向にあると感じる。アカハライモリもまだいる。 ・イシガメが生息しているが、指や腕を欠損している個体が明らかに増えており、アライグマの影響を受けていると考えられる。オオサンショウウオも影響を受ける可能性がある。 ・生野にヒメタゴガエルがいるため、調査したい。 ・生野でも下の方や、朝来、和田山でも人の多いところにはアカミミガメやアメリカザリガニがいる。
④動植物や自然の様子で、近年変化を感じることはありますか。	・JR線路の法面は昔草地だったが、今はあまり草刈りされず、つる植物が多い。 ・法面や空き地に変わった木（おそらくシンジュ）が生えている。	・詳しく書けばたくさんあるが、動物系ではヘビ類を見かけなくなった。マムシはそこそこみかける。 ・イモリも少なくなった。 ・シカがととも増えて、山の植物がシキミとかシダ類とかシカが食べないものばかりになった。ナニワズ、ミツマタも増えている。 ・ヤマビルは、昔は生野でしか見なかったが、今はどこでも見るくらい増えた。マダニはそこまで見かけない。 ・とにかく年々田んぼに関わる人が少なくなってきた。	・そもそも簡単には入れる山や川が少ない。それが自然を遠くしている部分もあるように感じる。 ・10年ほど前は山の近くであっても地面に寝転んで遊べたが、現在は5月～10月頃までヤマビルの発生が深刻な問題となっており、夏場に森に入るハードルが高くなっている。併せて、ダニも多い。 ・1960年代の燃料革命以降、薪炭利用がなくなったことで森に入る人が少なくなり、里山の手入れが途絶えている場所があるようである。集落と森の境界が不明瞭になり、ツタが茂り山が迫っているようで「怖い」と感じるような場所がある。 ・学校の指導がリスクマネジメントの観点から厳格化してきており、子どもたちが気軽に山や川に入れなくなっている。活動においても、自由に利用できる場所が少なく、心理的には山や川が遠くなっている現状がある。 ・近年は、ヤマビルやダニの増加から、それらを媒介するシカやイノシシの数の増加や分布拡大が感じられる。特に今年はクマが里に降りてくる事例増加が東北地方を中心にニュースとなったが、その要因として、野焼きなどの「火や煙の匂い」が里から消えたことがクマの警戒心を解き、里山に近づきやすくなっているという説もある。	・シカの影響は常日頃感じている。下層植生がなくなること山が乾燥化している。特に小さな沢が崩落していると感じる。シカが多いことは、オオサンショウウオだけでなく、小型サンショウウオも影響を受ける。 ・雨の降り方が変わり、一度にたくさん降るため川の水位が安定しない。ダムがあっても放水するため、川岸が削られ、オオサンショウウオの隠れ場所も消えてしまう。普段は水が少なすぎる。オオサンショウウオが以前ほど見られなくなった場所もある。

設 問	あさごササユリ21（現在は解散）	特定非営利活動法人 ひょうごエコ市民ネットワーク	のあそび部	特定非営利活動法人 日本ハンザキ研究所
	市民による環境保全団体	市民による環境保全団体	市民による野外活動団体	民間によるオオサンショウウオの専門研究機関
⑤活動を継続するにあたって困っていることがあれば教えてください。	・会議や活動に取り組む姿勢のことで、アドバイスをくれる立場の人が欲しかった。 ・活動が終了したのは、メンバーの高齢化が要因。 ・交通費や出張費が全て自腹だったから、それも負担だった。費用面の援助は欲しかった。 ・活動の記録は、報告の必要が生じなかったので作成しておらず、残っていない。	・例会のWeb会議で話し合いや情報交換をしているが、最近メンバーがとにかく少ない。 ・今はそれほど資金が必要な活動をしていないので、費用よりも会員不足が課題。 ・高齢で活動ができないという理由で退会するもいる（最近2名退会）。 ・若い人はこういう組織に属することを嫌がるのだろう。新しい人が入ってこない。 ・NPO法人だと県に報告するものがたくさんあって大変。役員改選したら登記を変える必要があるなど、色々と作業が生じる。	・活動は冬もしたいと考えており、冬場の活動には付き添う大人の防寒のためにも焚き火が不可欠だが、公園を含む市内の多くの場所は火気厳禁で、使用することができない。また、公的施設は数週間前からの予約や書類手続きが必要なため、直前の判断で動く団体の運営スタイルと合致しない。 ・地域内で観察会や環境保護・保全を強調すると、意識高い系として捉えられ引かれてしまう空気感がある。この活動を開始した当初も、「子どもたちのありのままの姿を認めたい」というようなことを書いたが引かれたため、あえて難しい言葉を使わず「遊ぼう」と表現を使うなど、工夫が必要。 ・川でいえば漁協との関係、山でいえば私有地との境界や所有者との関係が不明瞭で昔より厳格になってきているため、川や山を気軽に利用することができず、またその場所も極めて少ない。利用できる場所の情報も少なく、自力で場所や理解のある人を探すのにも苦労している。学校の裏山なども、リスク管理の観点から立ち入り禁止となっているケースが多く、子どもが自然と触れあう機会の喪失の観点からも課題である。	・人手がない。現在、実際にフィールドに出られるのはボランティアを含めて4～5人。朝来市内在住者が中心である。 ・安定した資金を得るのが非常に難しい。会員から1000～3000円の会費を集めるほか、調査業務やオオサンショウウオ保全のコンサルティング活動を行っている。公費を得て行う活動が安定すると、財政的に安定する。
⑥自然や生きものについて、もっと知りたいことや、やってみたい活動はありますか。	—	—	・活動団体のリーダー的な立ち位置にある者として、植物や動物の専門知識、クマへの対処法、救急救命などに関する勉強会を、子どもがいても参加が可能な場所で開催してほしい。 ・朝来市では、虫の観察会の機会や図書等はあるが、鳥の観察会などの活動や情報が全般に少ないと感じている。鳥は子どもでも親しみやすい動物なので、探鳥会をしてほしい。あるいはその情報を提供してほしい。 ・豊岡市で行われているような「小さな自然再生」の取り組みは楽しく、勉強・体験にもなるので、朝来市でも実施できるとよいのではないかな。	・基金を作り、活動する個人や団体に活動資金を助成したい。5万～10万円の費用で始められることもある。実績がないと助成金を取ることが難しく、苦労した経験がある。 ・自分たちで保全対策を行いたい。市民や土木行政と一緒に小さな自然再生のように、簡易な遡上路を作るような取り組みをしたい。

設 問	あさごササユリ21（現在は解散）	特定非営利活動法人 ひょうごエコ市民ネットワーク	のあそび部	特定非営利活動法人 日本ハンザキ研究所
	市民による環境保全団体	市民による環境保全団体	市民による野外活動団体	民間によるオオサンショウオの専門研究機関
⑦活動を継続したり、新たな活動を始めるにあたって、支援が必要と感じていることがあれば教えてください。	※あさごササユリ21は既に解散しているため、設問は全て活動していた当時のことを想定してお話を伺った。	・やはり、もっと会員を増やしたい。地元との連携もあまり積極的にやってないので、地元との協力、関係構築を助けてもらえるとよい。	・活動場所を提供してくれる地権者や寺などの紹介、及び活動に理解のある協力者とのつながりを求めている。 ・焚火は大切な自然体験の一つと考え重視しているので、火を使ってもよい場所を何とか都合してほしい。また、火を使ってよい場所の情報を提供してほしい。 ・今回のタウンミーティングのような、多世代や新旧住民が知識や技術を継承したり、お互いの活動を紹介しあったりできる交流の場は有意義なので、継続的な開催を期待する。 ・ヒメハナ公園の改修工事が計画されているようだが、中心的な利用者は子どもたちなので、子どもたちの意見を聞いてほしい。その際、複雑で親を介する必要があるパブリックコメントの方式ではなく、簡易なアンケートやWebフォームを使用したヒアリング等、子どもたちが直接意見を届けられるような工夫をしてほしい。	・地域と連携した活動ができていない。地域に根差した保護・保全活動ができると将来につながると思う ・地元の人の活動への協力や、情報提供はできるが、地元の人の動きを作ることはできないため、知恵を出していただきたい。

設 問	石田 弘明	岡田 純	栗山 武夫	布野 隆之
	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授／兵庫県立人と自然の博物館 副館長	NPO法人日本ハンザキ研究所 理事長	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授／兵庫県森林動物研究センター 主任研究員	兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 エコ研究領域 准教授／兵庫県立コウノトリの郷公園 主任研究員
	植物・植生	両生類	哺乳類、両生類、爬虫類	鳥類
①朝来市の自然環境の中でも、特徴的、特に重要と考えられる場所があれば、ご教示ください。	・社寺林（鎮守の森）：青倉神社、岩津神社、岩屋観音、寿賀神社など、小規模でも照葉樹林が残っている場所。倒木防止のために鎮守の森の大木を伐採する動きがあるため、抑止力としてレッドリストに掲載した方が良い。 ・草原：池ヶ平、粟鹿山、さのう高原の草原は県レッドデータブックには掲載されていない。希少種が多く生育していても草原自体が貴重である。池ヶ平の放牧地の草原が残っているのであれば、大変重要である。 ・二次林（雑木林）：南但馬自然学校周辺（モリアオガエルの生息地を含む）、山東アウトドアビレッジ（旧放牧場）、馬場山キャンプ場（カシワ林）など。人工林が大半を占める現状では、残存する二次林は総じて重要であるが、その中でも市民団体が保全活動を行っている場所や施設の敷地内、シカの食害が比較的少ない場所、昆虫相が豊かな場所などを重点的に選定すべき。 ・溪谷と滝：糸井溪谷や市内の有名な滝周辺。地形が険しいため、シカの被害を受けにくく、希少な植物が残っている可能性がある。	・黒川一帯（黒川溪谷・市川流域）：オオサンショウウオの生息地で、繁殖も安定している良好な環境。人が少なく河川改修がほとんどないため、堰堤による移動の障壁が少ない。稲作などの人の営みと共生した生態系が残っている。 ・生野町内にはヒメタゴガエルやヒダサンショウウオが豊富に生息。 ・神小畑川：様々な世代（3 c m程度の幼生～60 c m程度の成体）のオオサンショウウオが見つかったている。	・朝来市は、全体的に良好な環境と思われ、モリアオガエルやニホンアカガエルなど、他の地域では希少とされているものが普通種のように見られる。 ・ツキノワグマをはじめ大型の哺乳類の個体群が円山川で遺伝的に分かれていることが分かってきたが、丸山川上流部の生野あたりで東西の個体群が行き来している。朝来市は、円山川に分断された両方の個体群がいるし、その境界で交流しているという意味では、兵庫県内でもかなり重要な位置を占めている地域。	・朝来には奥山と里山の景観要素がある。この2つを重視するとよい。 ・イヌワシ・クマタカのような奥山の鳥と、コウノトリのような里山の鳥の両方が重要と言える。両要素のシンボリックな種が生息していることは朝来市の強みである。 ・リスト（案）をみると、里地～奥山の一般鳥類が多く生息しているようだ。 ・アカショウビンなど渡り鳥の繁殖地となっている。朝来市域は、渡り鳥の中継地というよりは、渡ってきたあとの生息地・繁殖地として利用されるので、鳥が多いと言える。 ・段ヶ峰のイヌワシは繁殖はしてないが、生息はしている。放浪個体がうろうろしていると思う。 ・県内で2つがい程度が生息しているが、20年ぐらい未繁殖の状況。高密度繁殖地として昔は15つがいた。このままだとあと10年で絶滅するだろう。 ・本種の衰退は、林業の衰退、荒廃が関係する。林内のモザイク状の里山管理が多様度（餌：ウサギやヘビ、やまどり）をあげる要因で重要だった。
②朝来市の生物相の中でも、特徴的、特に重要と考えられる種があれば、ご教示ください。	・ササユリ：朝来市独自に注目すべき種として、ササユリが挙げられる。現在は絶滅危惧種ではないが減少が著しい。象徴的な種。 ・草原性の植物：草原性植物が減少しているため、象徴的なリンドウ、オミナエシ、カワラナデシコなどはレッドに加えるべき。 ・希少な林床植物：ベニバナヤマシャクヤク、カタクリ、クマガイソウ、コケイラン、ウスゲクロモジなど。 ・春植物（スプリング・エフェメラル）：イチリンソウ、キクザキイチゲ、ユキワリイチゲなど。その象徴性や美しさからレッドに含めるのが望ましい。 ・樹木：アテツマンサク（自生の可能性あり）、フジキ、ユクノキ（溪谷の大木）など。	・オオサンショウウオ：朝来市内に広く生息、兵庫県内でも代表的な生息域。特に黒川一帯は繁殖が安定。生態系保全のシンボルとしての役割。 ・ヒダサンショウウオ：生野町内に生息する。 ・ヒメタゴガエル：市内での繁殖が確認されており、タゴガエルと混在して生息。	・ツキノワグマ、モモンガ、ムササビ。 ・モモンガは、兵庫県下では2市町村くらいでしか確認されていないが、生野で撮影されている。	（上記と合わせて回答）
③朝来市の生物相や自然環境について、近年変化が生じていることがあれば、ご教示ください。	・シカ害の深刻化：最も大きく深刻な変化であり、森林の下層植生が消失している。 ・樹林内の植生遷移の進行：手入れ不足により、常緑樹やササが増加している。 ・農地・草原の減少：耕作放棄地の増加や、かつての草原（放牧地・刈り場）の消滅が顕著である。 ・特定の病害の沈静化：一時期目立ったナラ枯れは、最近落ち着いている。	・河川改修による連続性の喪失：堰などの構造物がオオサンショウウオの遡上を阻害、繁殖期に移動できず、堰下に個体が溜まってしまう現象が見られる。ソースとなる個体群がどこにいるか、生息地として良い環境がどこに残っているかといった調査をすべき。川全体を見て保全計画を立てることが重要。 ・農業形態の変化（乾田化）：圃場整備により水路に段差ができ、カエルやサンショウウオが移動しにくくなっている。農業と生き物の繋がりが（水田→カエル→オオサンショウウオなど）をアピールすべきでは	・ニホンジカの個体数は、対策によってこの10年で減少しつつある。しかし、まだたくさんの個体がいるのは変わりない。 ・アライグマは、兵庫県南部から拡大し、今は但馬・西播地方でも定着しつつある。小型のサンショウウオやカメ類を食べてしまう。前腕部の欠損したイシガメをよく見かけるようになった。 ・ハクビシンも最近増加しており、分布も拡大している。	・高層建築の増加により、海岸の崖に生息していたイソヒヨドリが内陸の朝来市でも増加している。 ・外来魚を冬季の餌資源として、カワウが増加している。 ・外来魚を餌資源として、海岸に生息していたミサゴがダム湖周辺に定着している。

設 問	石田 弘明	岡田 純	栗山 武夫	布野 隆之
	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授／兵庫県立人と自然の博物館 副館長	NPO法人日本ハンザキ研究所 理事長	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授／兵庫県森林動物研究センター 主任研究員	兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 エコ研究領域 准教授／兵庫県立コウノトリの郷公園 主任研究員
	植物・植生	両生類	哺乳類、両生類、爬虫類	鳥類
④朝来市の生物相や自然環境が面している課題（例：生息種の減少、希少種の個体数の減少、外来種の増加、獣害など）があれば、ご教示ください。	・外来種の蔓延： 特にニワウルシ（シンジュ）の増加が凄まじく、供給源（発電所施設などの植栽）からの拡散が問題となっている。 ・シカによる植生改変： シカが食べない種（ミツマタ、アセビ、オオバアサガラなど）が偏って増えている。 ・希少種の盗掘： エビネやシュンランなどのラン科植物が愛好家によって掘られている現状がある。 ・管理放棄： 放置により、身近な野草地（田んぼの畦など）の生物多様性が失われている。管理放棄地ではクズが繁茂し、ますます管理しにくくなるという課題もある。	・アライグマによる食害： イシガメの腕欠損などの被害が顕著化している。オオサンショウウオの幼生も襲われる可能性がある。 ・円山川水系でのアカミミガメ、アメリカザリガニの増加 ・シカの増加による生息環境の悪化： シカが下草やササを食べつくし植生が損なわれ、山が乾燥する。植物が無くなることで斜面が崩れやすくなり、サンショウウオが繁殖する谷が埋まってしまう。	・哺乳類については、ニホンジカとアライグマが多様性に影響を与える種だと思う。 ・ニホンジカは、植物・植生への直接的なインパクトはもちろん、植物が減ることで昆虫類へ与える影響も大きく、また、河川への土砂流出の増加や栄養塩類のバランスを変化させてしまう。 ・ヌートリアも河川の植生を改変する力はあると思うが、あまり注目されていない。 ・在来の普通種が減少しているという情報は持っていない。	・市内にイヌワシが1ペアいるが、繁殖に失敗している。繁殖に成功しなければ今後10年程度で朝来市からはいなくなるだろう。イヌワシはモザイク状にあった伐採後の草地的な環境を餌場としていた。林業の衰退による管理放棄で生息環境が減少している。 ・長伐期施業が推進されているが、伐採時期が遅れると、埋土種子が発芽しなくなる可能性があるため、生物多様性の観点では今のうちに伐採することが重要である。 ・今後、耕作放棄地の問題が生じる。営農活動自体が生物多様性保全につながるため、支援が必要だ。
⑤既存文献・資料から整理した、市内における確認種一覧について、違和感や抜けなど、気になることがあればご教示ください。	・リスト（案）の精査： 既存リストにはヒゴタイ、ハマナス、ウラジロモミなど、植栽と思われる種が含まれており、除外や区別が必要である。 ・追加すべき種： 文献にないが、生育が確認されているクマガイソウやベニバナヤマシャクヤクなど、最新情報を追加すべき。	【抜けている種】 ・ヒメタゴガエル： 近年新種記載された種で、生野町内で生息・繁殖を確認。 ・タカチホヘビ： 標本記録があり、市内各所に生息している可能性あり。 ・ウシガエル： 朝来町や和田山町の糸井などで、生息・鳴き声を確認。 ・ヌマガエル： 和田山など市内に普通に生息。 【違和感・疑義】 ・ニホンヤモリ： 兵庫県のレッドデータブックでは重要種扱いだが、本来は外来種では。 ・セトウチサンショウウオ： 1985年の文献記録があるが、近隣の生息状況から、市内での生息は微妙。 ・ブチサンショウウオ： 過去の環境調査で記録があるが、斑紋の少ないヒダサンショウウオとの誤認の可能性あり。 【要調査】 ・ナガレタゴガエル： 現時点で記録はないが生息している可能性あり。	・ヒメネズミはいると思う。コウモリはよく分からない。 ・カワウソは記録が曖昧なので、注釈付きで出すか、出典がない場合は削除してもいい。 ・両生類ではヌマガエルが抜けている。ウシガエルはいると思う。ナガレタゴガエルもいるかもしれない。ナゴヤダルマガエルはいないと思う。 ・爬虫類は抜けがない。	・県のリストは広く浅く情報収集しているため、現在の朝来市の実態と整合を取るためには、地元で観察をしている方の持っている情報も必要である。
⑥収集整理した既存文献・資料について、他に追加すべき資料などがあれば、ご教示ください。	・「兵庫の植物」（兵庫県植物誌研究会の会報）： 県内の希少種情報が掲載される。 ・里山林整備事業の報告書： 整備時に詳細な動植物調査が行われているため、県（農林振興局など）に確認すべき	・「兵庫県内の両生類のリスト」（岩橋氏、元姫路市立水族館） ・第2回自然環境保全基礎調査（環境庁）の報告書： ハンザキ研創立者の栃本先生が旧生野町の調査を担当しており、その際のリストや記録（ブチサンショウウオ）が掲載 ・ハンザキ研に蓄積された独自の資料： 栃本先生が長年収集してきた、標本やロードキルの記録がある。	・ワイルドライフモノグラフ（兵庫県森林動物研究センターの発行物） ・兵庫県鳥獣保護管理計画	（上記と合わせて回答）

設 問	石田 弘明	岡田 純	栗山 武夫	布野 隆之
	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授／兵庫県立人と自然の博物館 副館長	NPO法人日本ハンザキ研究所 理事長	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授／兵庫県森林動物研究センター 主任研究員	兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 エコ研究領域 准教授／兵庫県立コウノトリの郷公園 主任研究員
	植物・植生	両生類	哺乳類、両生類、爬虫類	鳥類
⑦生物多様性地域戦略と並行して、朝来市版レッドリスト・ブラックリストを作成予定です。作成にあたり、掲載した方がよい種や、その他留意すべき点があれば、ご教示ください。	・ランク付けの考え方： ◦ 兵庫県版レッドデータブック（A～Bランク、絶滅）に掲載されている種は、市のAランクとする。 ◦ 県の「要調査」や市独自で重要と考える種（ササユリ等）をBランクやCランクに設定する案が示された。 ・分類群の拡大： 蘚苔類（コケ）や菌類（キノコ）については、専門家（秋山弘行氏など）へのヒアリングを検討する余地がある。 ・ブラックリストの工夫： 特定外来生物だけでなく、クズのような「在来種だが生態系に悪影響を与える種」をトピックスとして扱うことで、朝来市独自の戦略にできる。 ・普及啓発との連動： リスト作成を機に「市内にこれだけ貴重なものがある」と発信し、地元の保全活動（学校や有志団体）に繋げることが重要である ・ナガエツルノゲイトウやナルトサワギクは、現時点では市内での確認報告はないと思われるが、侵入すれば急速に拡大するため、注意喚起のために要注意種として挙げておくべき。早期発見が駆除の要となる。	【BL候補】 ・アカミミガメ ・ウシガエル ・クサガメ：イシガメとの交雑（ウンキュウ） 【留意点】 ・ニホンヤモリ：兵庫県RLでは重要種だが、実際は外来種。在来のヤモリがいないので、BLには入れる必要はない。	・ランクを例えば3段階くらいに決めて、イベントをやって見つけやすい種とかが分かってきたら、ランクを落としたり上げたりして変えていく。県のレッドリストに準拠して、情報を集めつつ変えていくのが良いのでは。 ・施策のアイデアとして、イベントは継続して行っていたきたい。普及啓発としてショート動画を作るとか、広報誌「あさご市報」に地域の古い神社の話とコラボして一種挙げてもらうとか、簡単な写真と解説を載せるのも良いと思う。	・既存のRLのランクを基本としつつ、可能であれば地元で観察をしている方の意見をもとに朝来市独自に補正するのがよい。 ・外来種のソウシチョウは有効な対策手法がない。増減情報を収集し、問題が出たら対応する形でよいだろう。 ・多様性を維持するための具体的な取り組みが重要であり、RL・BLのランクは重要ではない。
	—	—	—	—

設 問	三橋 弘宗	八木 剛（同席：坂本貴海）
	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部門 主任研究員／兵庫県立大学 自然・環境科学研究所	兵庫県立人と自然の博物館 事業推進部長
	河川生態系	昆虫類
①朝来市の自然環境の中でも、特徴的、特に重要と考えられる場所があれば、ご教示ください。	・イヌワシやクマタカなどの希少猛禽類や、ムササビやヤマネなどの小型哺乳類の生息する山間部は重要。 ・残存する草原も重要。シカの食害から守る取り組みは良いと思う。 ・コウノトリが利用する水田の質の改善は、取り組みとして考えられる。例えば、水路に落ちたカエルが、水田に戻れるようなものを設置するなど。農業関係者へのバックアップも必要である。 ・朝来市内に残っているかは分からないが、桑畑は生息地としても、地域の産業につながる場所としても重要である。	・過去に記録はないが、多々良木にニシキキンカメムシが生息している可能性がある。佐用町で2~3年前に、兵庫県下では半世紀ぶりに再発見された。 ・ニシキキンカメムシはホンツゲだけを食べるので、ホンツゲが生えてる多々良木ダム周辺は重要。 ・生野はダイコクコガネが最後までいた場所の一つ。 ・和田山の石部神社は、ゲンジ・ヘイケ・ヒメボタルの3種を全てみることができる、なかなか無い場所。 ・カワラバッタは、円山川に古い記録はあると思うが、今は記録が無い。是非再発見してほしい。 ・朝来市は地域的にあまり目ぼしいもの生息していないため、虫の調査が行われていない場所。
②朝来市の生物相の中でも、特徴的、特に重要と考えられる種があれば、ご教示ください。	（上記と合わせて回答）	（上記と合わせて回答）
③朝来市の生物相や自然環境について、近年変化が生じていることがあれば、ご教示ください。	・生野銀山の鉱毒は、今でも底生動物等の水生生物に影響しているようだ。岩崎氏（現産総研）が学生時代に研究していた。	・クビアカツヤカミキリは、近い将来入ってくるだろう。 ・最初騒ぎになったのは特効適用農薬がなかったからで、今は適用農薬があるため対処はできる。あとは管理してる人がどこまでやれるかという話である。 ・エドヒガンやヤマザクラへの被害は現時点では少ない。 ・シカの食害がひどく、畦畔の雑草がなくなって、柵で囲った農地の中で草原性の生きものが維持されている。ネギやソバの花が蜜源になっている。 ・但馬地域は全般にシカの食害でチョウ全般が減っている。蜜源がなくなる影響が大きい。

設 問	三橋 弘宗	八木 剛（同席：坂本貴海）
	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部門 主任研究員／兵庫県立大学 自然・環境科学研究所	兵庫県立人と自然の博物館 事業推進部長
	河川生態系	昆虫類
④朝来市の生物相や自然環境が面している課題（例：生息種の減少、希少種の個体数の減少、外来種の増加、獣害など）があれば、ご教示ください。	・風力等の再エネ関連で、候補地とされるエリアが多くある。 ・生物多様性との共生をきちんと事業計画に盛り込むべき。 ・クビアカ対応について事前に体制が検討されているか。危機管理として。クマや他鳥獣も部局横断的な対応が必要で入念な調整が必要。 ・シカの数減らすべき。 ・掘削等の河床の低下に影響され、地下水位が低下している。	（上記と合わせて回答）
⑤既存文献・資料から整理した、市内における確認種一覧について、違和感や抜けなど、気になることがあればご教示ください。	・カマキリ（魚類のアユカケ）やイトヨは、海からここまででは登ってこれないと思う。 ・シマドジョウは同定し直した方が良い。 ・リスト（案）にはヤリタナゴが載ってないが、生息していると思う。 ・ニッポンバラタナゴはかなり古い記録だと思う。 ・ヒガイ類、ウナギ、アマゴ、イワナは、放流個体が含まれる。	・リスト（案）には、兵庫県や朝来市にはいないと思われる種が何種類か入っている。 ・ハラビロハンミョウは全国で数件しか発見例がなく、朝来市にいるような種ではない。海岸の虫。 ・マークオサムシは東北以北しかいないので、そもそも生息域に入っていない。 ・中学校等の調査結果は、リストには含めない方が良い。
⑥収集整理した既存文献・資料について、他に追加すべき資料などがあれば、ご教示ください。	・「自然環境モノグラフ4 ―兵庫の淡水魚―」（2008年）を追加すべき。	・「IRATSUME（NPO法人 但馬むしの会の会報）」と「きべりはむし（NPO法人 こどもとむしの会）」を押さえているなら、基本的には問題ない。 ・兵庫生物学会の会報にも情報があるかもしれない。昆虫以外の情報も含まれる。

設 問	三橋 弘宗	八木 剛（同席：坂本貴海）
	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部門 主任研究員／兵庫県立大学 自然・環境科学研究所	兵庫県立人と自然の博物館 事業推進部長
	河川生態系	昆虫類
⑦生物多様性地域戦略と並行して、朝来市版レッドリスト・ブラックリストを作成予定です。作成にあたり、掲載した方がよい種や、その他留意すべき点があれば、ご教示ください。	・ カテゴリーの設定は不要。 ・ レッドデータブックを作成することよりも、兵庫県レッドデータブックのA・Bランクの種が何処にいるかをデータベース化して、それを建設関連部局にこまめに共有し、開発などの対象になっていないか確認させることが重要だし、効果的である。	【レッドリストについて】 ・ 朝来市という狭いエリアの話では、県や国と同じロジックで考えても、地域個体群での話となり意味がない。種の分布範囲に比べて選定しようとしているエリアが小さく、絶滅という言葉がそぐわない。 ・ 明石市のレッドリストのタイトルは柔らかい表現にした方が良くいと助言した。神戸市も、改訂前は「神戸の大切にしたい生き物100選」のような打ち出し方だったと思う。 ・ 朝来市は市民の関心が低いのに、カテゴリーの話や絶滅、外来種という話をしても響かない。 ・ 住民が楽しく明るくなるような方針で進めた方が良く、レッドリストの出し方とタイトルは上手く考えた方がいい。それによって、リストや分布調査の精査をどこまで求めるのか変わってくる。 ・ ランクは市民に見つけてほしい種というように形作の方が良いと思う。再発見したら嬉しいとか、熱い想いが伝わるような。 ・ 市内に記録がある種からA、Bとランクをつけるのもいいが、まだ未知なところが多いので、探して欲しい種を別途カテゴリー分けして、見つけてポイントを集めようという形にするのも楽しいのでは。 ・ 朝来市の情報は不足しているので、調査が必要。
	ー	【ブラックリストについて】 ・ ブラックリストはあまりポジティブな話にならない。 ・ シンジュをブラックリストに載せても、役所の支援などが無いなら、掲載する意味がないのでは。 ・ 里山公園に行った時、ザリガニを見つけたら踏みつぶしてくださいと看板があったが、教育上どうなのか。しかもアメリカザリガニを持ち込んだのは人間なのに、生きものに善悪をつけて、これは殺してもいい生きもので、イシガメは守ろうみたいなのは、違うと思う。 ・ 農家の人が青虫を見たら踏み潰すのは、その生きものを駆除する動機があるから。しかし、被害を受けるわけではない人たちにも駆除せよと言う必要があるのか。それはネガティブな思想ばかりを広めることになる。 ・ 自然環境に持ってこないとか、ペットは逃がさないとかを文章で書くのは良いが、特定の種を悪者だと吊し上げるのは良くない。 ・ 国レベルでは水際対策の必要があるし、ヒアリのような人体の生命安全に影響する種を阻止するのは分かる。 ・ クビアカツヤカミキリは、大きなソメイヨシノがあるところは注意した方が良くという喚起はあってもいい。 ・ アライグマなど農業的にも生活的に駆除する必要がある場合、駆除する人への補助を役所が行うのは良いと思う。 ・ 何らかの対策ができるもの以外は載せない方が良い。